

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームおりつめ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100011		
法人名	社会福祉法人 九戸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームおりつめ		
所在地	〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内第8地割15番地1		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症感染対策の為、家族の面会、地域の方々との交流が制限されている状況ではありますが、その中においてホーム内で楽しめる屋敷会を利用者の嗜好を伺いながら行っております。地域の食堂の出前を注文したり食事に使う野菜を畑で育てています。花壇についても地域の方から苗を頂いたり草取りや草刈りの協力を頂き四季を楽しんでいます。ドライブとして馴染の場所へのドライブも日常の生活の中で取り入れています。地域の方から野菜の差し入れなども沢山見られています。午前、午後ラジオ体操を行い活動の一つとしています。月2回理学療法士からのリハビリが開催されゴムバンド体操にも積極的に参加されています。口腔ケアにも力を入れており肺炎での入院者はありません。自然豊かな環境の中で生活しており、近くの神社鳥居までの散歩を楽しまれたり、周辺を散歩されたりしております。個人個人の想いに寄り添うことに力を入れ取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、村の中心地に位置し、近くの高台には法人の特別養護老人ホームやデイサービスがあり、同施設の看護師の助言や理学療法士の機能訓練の支援のほか、防災訓練などの相互協力など、関係施設と連携を図りながら、より充実した介護サービスを利用者に提供している。運営にあたっては、法人の経営理念や基本方針、事業所の理念を職員間で共有し、家族のアンケートなどにより意見等を伺うほか、利用者に寄り添い要望等を聴き取り、利用者一人一人の意向に沿った介護支援を行っている。また、運営推進会議からのコロナ禍対策への助言のほか、職員の提案による少人数のドライブや前庭でのイベントの開催、居室へのエアコンの整備など、業務の改善や施設の拡充に反映させている。さらに、コロナ禍にあつて、法人の機関紙を村内全戸配布するなど、地域との交流の維持、継続にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和3年11月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、基本方針を基にスローガンとして「安全 安心 快適に」をスローガンとし目標管理計画を定め取り組んでいる。計画した内容について実践し職員間でマニュアル等見直し、改善研修を行いながら取り組んでいる。	職員会議の際に勉強会を持ち、理念とスローガンを確認している。職員個々の具体的な目標を掲げ、それに向けての取り組みや進捗状況について管理者は随時、個人面談を行い実践の場で活かせるよう助言を行っている。個々の目標を掲げる取り組みにより、職員の意識にも変化が見られるとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の対応としてご家族の方地域の方との交流は行えていないが、玄関前にはベンチを設置し地域の方にも休んで頂けるよう工夫をしている。地域団体から花を頂き花壇を作っている。地域の方から野菜の差し入れや草刈りボランティアを頂くことが出来ている。自宅付近へのドライブを計画し住み慣れた場所を大切にしている。	コロナ感染症の流行により、地域との交流減は余儀なくされたが、近隣にホーム内の様子をお便りで知らせること等で繋がりを切らさない取り組みが行われている。散歩の途中で声を掛けられ、ご厚意でホーム周りの草刈りも行って貰っているほか、野菜の差し入れを頂いたり、より良い関係が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策を行った上で外出や散歩、通院の介助を行っている。利用者が地域や外出先で出会った方々とコミュニケーションをとる時に認知症に理解をいただける様に対応している。職員に対しては認知症について研修を計画し専門性を高めることに力を入れている。会議時には認知症留意事項を職員間で考え話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催することで計画を行っている。今年度はコロナ感染症対応の為8月においては書面での会議をしている。会議前に資料を事前に配布、事前意見用紙も活用している。職員の研修参加内容、是正報告、ヒヤリハット報告、身体拘束への取り組み、待機者の報告など運営に関する説明を行い、意見を頂いている。	運営推進会議では入居者へのサービス内容やヒヤリハット等の報告など、ホーム内の実際の活動に伴うことを伝え、多様な立場の委員より、コロナ禍の予防対策、事後発生時の救急対応、居室への手押し通報センサーの設置などの助言をいただいている。議事進行を自治会長が行い、活発な運営の様子が議事録からも見られ、各委員の積極的な関与が窺われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の法人主催の「入所検討委員会」に地域包括支援センター職員、民生児童委員の参加があり、情報を得ている。運営推進会議にも包括支援センター職員、民生児童委員、村議からの参加を頂き事業者内の活動の報告を行い、協力、助言を得ている。	運営推進会議の委員である地域包括支援センター職員から、助言等を得ているほか、法人を通じて広域行政事務組合から介護保険関連の情報を入手している。また、防災情報端末が設置され、村からの緊急情報等を入手している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤職員が1名勤務となる時間以外は玄関の施錠は行っていない。毎月「身体拘束適正化委員会会議」を開催しており所長の参加も頂いている。「危険予知訓練」についても毎月行っており職員間での困難事例是正報告事例について検証を行い拘束とならないケアが職員が全員行える様に取り組んでいる。	所長以下の職員全員で構成する委員会を毎月開催し、マニュアルの見直しの検討などを行うとともに、「危険予知訓練」としてヒヤリハットの事例について検証している。日常的な身体拘束防止、虐待防止へのきめ細やかな取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	認知症ケアマニュアルを尊厳(認知症)ケアマニュアルとし会議にて周知し一人一人を尊重、虐待とならないケアが行える様に職員全員で確認している。グループホーム会議等で生活の中で虐待に繋がる事例が発生することないように徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とする方はいないがご家族も高齢となられ今後必要性が考えられる。ご家族からの相談は見られていないが制度について今後学ぶことを計画して行く。現状は成年後見制度についてのパンフレットでの知識としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時点で施設を見学を頂き概要等の説明を行っている。制度等変更時には重要説明事項書について電話での説明を行い文章を送付し確認、認めて頂いている。また、毎月発行しているグループホームおりつめだよりを活用しご家族へお知らせやお願い事を発信している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱・意見用紙を用意し、どなたからも意見等を頂けるようにしている。連絡・相談用紙を整備し意見等が職員全員で周知適切に対応が出来るようにしている。年2回家族対象のアンケートを計画している。今年度は10月にご家族へ発送している。法人の苦情相談委員会にも所属しており苦情発生時には報告・相談が出来るようにしている。	家族の意向を面会時や電話等で聴き取るほか、家族アンケートの実施やお便り、居室担当によるお知らせなどにより、利用者の生活情報をお知らせして日常が見えるように心掛け、その上で意見・要望を出してもらうようにしている。また、利用者の好きなこと(ドライブ他)や、昔取った杵柄を活かして活動してもらうなど、生き活きと暮らせる支援を行っている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われているグループホーム会議前に事前意見用紙を全職員に配布し、意見を出してもらっている。意見については内部での話し合いの他、経営会議、所長面談時等に報告しながら改善に取り組んでいる。	働きやすい環境づくりのため、管理者は日頃から職員との対話を大切にしている。福利厚生に関する、資格取得希望者への支援(試験合格に向けた内部研修の実施、シフト調整等)、スキルアップへの支援(研修会への参加)等、職員個々の思いや意見を組織的に取り入れ、職員の意欲・志気を高めるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課規程により職員の努力の程度及び能力の保有程度を評価し、勤務意欲の高揚と業務効率の向上を目指している。また、各職種手当の見直し等も行っている。(処遇改善手当等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を提供している。また、外部研修については、職場内で伝達研修が行える様に取り組み職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会等の同業者の研修等に積極的に参加するよう努めており、ネットワークづくりや勉強会、研修等を通じて、サービスの質の向上につながる取り組みを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴や希望を伺い、生活支援援助計画に取り入れている。要望等も丁寧に伺い、不安の軽減に取り組んでいる。本人の行動や言動から本人の想いを受け止め信頼関係を確立し安心して生活が出来るように努めている。入所されてからも継続して対応するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも不安なことや要望・希望を伺い、生活援助計画に取り入れ、計画の内容を家族に説明し安心してサービスを利用してもらえるように努めている。状態に変化があった時には、連絡を密に行い、家族と情報を共有しながら対処にあたっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から丁寧に話を伺い、安心してサービス利用を開始して頂けるよう努めている。法人での入所検討委員会においては、外部専門家の出席あり必要とするサービスについて判断し他のサービス利用も含め、適切な支援になるよう話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間を通して野菜作りを行っており、栽培方法、植える時期等利用者さんが主体となって活動している。日常生活においても毎週食事会を開催、日々の食事の用意、洗濯、掃除等出来る範囲の事を協力して頂き共に支え合う関係も築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊、外出等、本人の意向や希望を家族に伝え、協力を頂いていたが現在は感染症対策の為ご家族との外泊、外出は行っていない。面会についてはオンライン面会、窓越し面会等感染状況に応じて行えている。嗜好品の差し入れや絵手紙等を届けてもらうこともあり利用を励まして頂いているケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行った上で馴染みの理容店、美容室に出掛け本人の思いに寄り添った支援に努めている。自宅までのドライブや自宅までの散歩地域の方と散歩に出掛けた時の交流を支援している。初詣や季節ごとに生活していた地域へドライブすることにも力を入れ取り組んでいる。	職員の同行で、利用者の行きつけの理・美容院へ出かけており、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。このほか、兄弟の面会もできる限り希望に沿うよう行う、墓参りへ行く(職員の同行)、自宅の柿を収穫に行き干し柿づくりを行う、近隣のデイサービスや特養ホームの知人とオンライン面会を行うなど、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の定例会議、連絡ノート、相談・連絡票で利用者の情報や状況を確認を行いながら孤立することがない様に利用者同士が良好に関わる様に支援している。職員が仲立ち役に入るなど支え合える様に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度において契約を終了した方はいない。法人内に特別養護老人ホームやディサービス、居宅支援センター、ヘルパー等の事業所があり相談が行える状況にある。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いや希望、不安な事を伺えるように努めている。伺った内容については連絡・相談票を活用し職員に周知し共有している。ご家族からの要望についても同様に対応し改善に向けている。行動や仕草、体調などからも推測し把握に努めている。	利用者本人の生活歴の把握に努め、好きなことや得意なことを行うことで、少しでも意欲的に毎日を過ごしてもらえるように努め、何気ない日常発する言葉を確りと受け止めている。生け花の趣味がある方には花を生けてもらうこと、保健衛生等に携わった経験のある方には得意分野で力を発揮してもらうことなどに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からこれまでの生活や思い出を普段の会話を通じて伺っており、家族からも継続的に生活歴について伺うことを心がけている。在宅サービスを受け入所頂いた利用者については担当した支援専門員から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、連絡ノート、相談・連絡票を用いて一人一人の状態の把握に努めている。日々の生活の中で出来る事困難になっていることなどの観察、把握改善に努めている。心の負担やストレスがなく生活して頂けるように体調、精神面の支援を継続している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や生活状況のアセスメントを毎月会議等で話し合っている。会議前後においてもモニタリング等で変化があった利用者については担当職員、支援専門員を中心に話し合いが出来ている。家族からのご意見や要望については面会時や通院前後の電話連絡時や来荘時に伺い、職員間で共有し、生活支援援助計画に取り入れることが出来ている。	長期、短期目標に基づき、毎月、アセスメントとモニタリングを行うことで、利用者の細かな変化にも柔軟に対応した介護計画にしている。ケアマネは、事前に職員にアセスメント表を渡し、加筆修正を行い、成案としている。利用者、家族の希望は随時取り入れ、主治医の指示等も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、ケース記録、介護日誌に記録するとともに申し送り、連絡ノート、相談・連絡票に記録し職員間で共有している。家族にも毎月送付している。これらの情報を毎月グループホーム会議での生活援助計画の見直しに役立てている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は感染症対策の為利用者通院を職員で対応している。状況変化に応じて家族と連絡を取り行っている。 遠方のご家族からご本人と同行しての役場手続きについても連絡を取りながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民から、施設周辺の環境整備の協力を頂いている。周辺の散策時等に付き添って頂いたり声を掛けて頂いたり日常的に利用者の生活に支援を頂いている。地域の駐在所には必要な情報を提供し連携体制を整えている。感染対策中でも近隣の方々の支えは心強い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に受診することが出来ている。通院時には、家族と連絡を取り状況の報告、通院後の説明が出来ている。主治医からの家族説明が必要なご家族には同行をお願いし対応頂いている。専門医へに通院が必要となった場合についても受診している。	入居前からのかかりつけ医に通院している。現在は、原則、職員が通院対応をしている。主治医からの依頼で家族での対応を行う方もいるが、円滑に通院が行われている。通院時には、通院情報提供用紙を持参し、日常の様子を伝えている。医療機関からも受診の状況を記入してもらっている。各種予防接種も適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護を利用している方はいない。法人内の看護師との連携協力が取れる状況であり、口頭で相談を行いアドバイスを頂いている。感染対策では法人の感染対策委員会会議に参加し情報アドバイスを頂いている。かかりつけ病院とは電話にて相談、連絡が行えており助言を頂き通院が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、支援専門員が直接病院へ出向き、病院関係者とカンファレンスを行っている。入院されてからは病院の退院調整看護師から随時電話にて連絡を頂き退院に向けての情報交換が行えており家族とも病院からの情報の共有が行えており早期退院が出来る様に努めている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては現時点では行っていない。重度化が進みなど、変化が見られて来ている利用者については、法人経営会議時に報告し今後に向けた情報交換を行っている。グループホームでの生活が困難となられてきた方についても家族から相談を受けている。今後も、利用者、ご家族の意向を踏まえながら、グループホームとして出来る最大限の支援を行うこととしている。	入居時に、重度化した場合の対応について家族等に説明し同意を得ている。事業所内での看取り経験はなく、重度化した場合は、改めて家族等の意向を確認し、特養への入所又は医療機関への入院となっている。	重度化した場合に適切に対応できるよう、他施設での事例等を参考に、研修会などを通じて研鑽を深める機会を設ける創出を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全な暮らしが守られるように、応急手当普及員講習受講終了者を中心に毎月避難訓練を実施している。 毎月危険予知訓練として実際に起こった事故の検証やヒヤリハットの検証を行っている。急変時の対応としてはマニュアルを整備し対応時の参考としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災による避難訓練を行っている。利用者、職員が共に安心して暮らしを継続出来るように取り組んでいる。居室に防災頭巾、避難時に利用者確認を行うためのカードを整備している。避難時持ち出し袋には、個人カードを整備し本人確認等が出来るように対応している。今年度は地震後火災想定への対応についても訓練を行っている	毎月の避難訓練に加え、年1回消防署員立会いで、総合訓練と夜間の避難訓練を実施している。法人の要請により、災害協働班(消防団、運営推進会議委員等で組織)の協力を毎回頂いてきたが、コロナ禍により、今回は見合わせた。近年、ハザードマップで浸水想定地域とされたこともあり、水害想定への避難訓練も予定(11/24)している。食材を3日分確保し、発電機や暖房機は特養が整備している。夜間用のヘッドランプの整備などを検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	8月に尊厳マニュアルの見直しを行い職員間で確認し合い言葉掛けに注意し対応を継続中である。法人で行われた理念・倫理・法令遵守についても代表で参加し伝達研修を予定している。接遇チェック表についても5月会議にて提案し職員個々が接遇について振り返れる様に取り組んでいる。	利用者一人一人の心情を大切にされた対応に努めている。利用者の生活歴を参考に、話しかけ方やお手伝いの割り当て、生活の中に趣味を取り入れることなどを行っている。13項目の接遇項目について、職員が「接遇チェック表」で自己確認し、管理者がチェックしている。広報紙への写真掲載や関係機関への個人情報提供について、予め本人、家族の同意を得ている。個人情報は保管室に保管し、端末情報はパスワードで管理している。	



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	平均年齢が90歳以上と高齢化しているが元気な方が多く日常の会話、表情、家族からの情報から得られた思い、希望、関心等の実現に向けて、その人の力に合わせ、自分で決められるような問いかけや決めやすく選びやすい働きかけを行い、利用者自身で決められる場面を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やドライブの希望が多く見られ天気の良い日は近くの神社周辺まで散歩をしたり村内ドライブに出掛けたりしている。お部屋で過ごしたい人に対しては、体調を確認しながら自室での生活を支援している。玄関等過ごしたい場所での時間を安全に過ごして頂けるように心がけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	来たい服は選びやすいよう、探しやすいようにハンガーやタンスに整理、収納を担当職員が主となって一緒に行っている。なじみの美容室、理容室へ出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食会を定期的に開催し利用者さんと調理や食事が楽しめる時間を作っている。地域の弁当屋さんから弁当を配達して頂き食事に食べることも楽しみの一つとなっている。日々の生活の一部として盛り付けや調理、茶碗洗いを職員と一緒に行われている利用者もいらっしゃり協力して行えている。	献立は職員が作成し、皮むきなどのお手伝いを利用者から得ながら、職員が料理している。食材は近くで買い入れているほか、家族や地域の方々の差し入れ、菜園の野菜などを活用している。戸外での食事や、行事ごとの食事、誕生会などの特別な日の食事を楽しみ、利用者は手作りおやつや郷土食(麦かけ、せなかあて等)作りに参加している。食事の準備、調理、片付けなどの様々な場面で入居者も力を発揮し、職員とともにしている。職員が教えられることも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については摂取下量を記録し必要量が摂取できているかチェックを行っており、ご家族にも毎月チェック表を送付している。野菜や雑穀を取り入れし食事形態も柔らかくを基本としている。ミキサー食も対応し義歯のない方には一口大の大きさで提供している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、食事前後のうがい、食後の義歯の洗浄を行っている。義歯のない方はうがいを対応している。義歯洗浄の難しい方は職員が対応している。また、義歯は専用の洗浄剤で週2回消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2居室に1カ所のトイレ配置になっている。排泄チェック表を用いて利用者個々の排泄時間を職員間で共有を行っている。表情や仕草を観察し排泄の誘導もやっている。退院後バルーンカテーテルとなった方においても本人から排便の希望ありポータブルトイレでの排泄が行えている。オムツ使用者はいない。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、表情や動きを見てトイレに案内、誘導している。4名程の自立者は、布パンツやリハビリパンツ、尿取りパットなどを併用している。失敗した場合には、職員が速やかに対応してシャワーや着替え等を行なっている。利用者の皆が布パンツでの生活を続けられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事の提供を行っている。起床時には乳製品の提供やオリゴ糖を使用し、快便となるよう取り組んでいる。水分についても起床時から日中に掛けて多く摂取頂けるよう工夫しながら声掛けを行っている。ラジオ体操を午前午後と取り入れている。出来るだけ歩くことを増やすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば希望日に対応できるように工夫している。同姓介助希望の方には対応出来るようにしている。リフトを完備し、負担の少ない入浴支援を行っている。入浴時には入浴剤等を使用し入浴を楽しんで頂けるように工夫している。	毎日、時間指定はなく、希望に沿って入浴している。平均で週2回の入浴となっている。機械浴を利用している利用者もあり、状態が落ちてきても対応が可能となっている。家族からいただいた入浴剤を使うこともある。入浴時は歌や世間話をし、利用者と職員のコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごして頂いている。食堂内にもソファやコタツを用意し休息出来る環境作りを心がけている。和室には堀コタツも完備し食堂内で傾眠されている方には声を掛け休んで頂けるように対応している。夜間の睡眠が快適になるよう水分、栄養、排便、運動等日中の活動を支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、通院時情報提供用紙については、職員が常に確認できるように綴っている。薬や治療方針に変更があった利用者については、状態や様子の変化等観察する様に努めている。内服薬について研修や資料を用意し確認をしている。服薬時には服薬前に名前、顔を確認してからの服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花を生活習慣にされてきた方には食堂や自室に花を飾って頂いたりしている。農業に従事されて来た方には職員と一緒に農作業を負担とならない程度に行っている。一年を通して収穫を楽しんで頂いている。嗜好品についてもご家族から継続的に届き提供することが出来ている。本人かも要望があり職員が購入している方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム周辺は自然に囲まれており、地域住民の散歩コースにもなっており、利用者が散歩している時声を掛けられることも多くある。今年度は感染症対策の為密にならない場所への外出を行っている。春は桜の夏には葉タバコの様子、秋には稲穂の出来具合など個々の要望を取り入れ支援している。自宅を心配されている方には自宅までドライブを行い安心頂ける様心がけている。	ホーム前にはベンチがあり、戸外での日向ぼっこもできる。日常的に近隣の散歩も行っており、地域の人と挨拶を交わしたりしている。農家であった利用者も多く、田畑の状態を見るのも楽しみの一つとなっている。利用者個々の希望で、ドライブしたり、自宅を見に行ったりすることもある。馴染みの餅屋にいき、地域の名物の餅を買ってくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し本人が居室で管理している方もいる。事務室金庫にて預かっている方については、本人から希望があった場合にはお渡しし確認をして頂いている。家族には毎月小遣い帳のコピーを送付し確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂内の電話にて希望があればご家族や知人への電話の取次ぎを行っている。オンライン面会が出来るように整備し遠方の方とも連絡を取って頂けるように支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、職員間の声について気を付けている。温度計や湿度計を使用し調節を心がけている。食堂にはコタツ式ダイニングテーブルを用意し足元からの寒さ対策を行っています。玄関前にはベンチを設置し、地域の方、利用者が気兼ねなく過ごせる空間作りに努めている。南側には和室も完備しておりくつろげる環境となっている。季節を感じられるようにドライブや散歩時には草花を摘み飾るなど工夫も行っている。	事業所は、木の温もりを感じさせる回廊型の造りになっている。天井も高く開放感がある。入口傍の和室には大きな炬燵がある。窓が多く、採光も良い。随所に見られる利用者が作成した装飾品等は、季節を感じさせる。見通しが悪い場所には危険のないよう音のでる鈴が設置してあり、利用が触れた場合には職員も分かるような工夫がしてある。日中の時間帯は殆どの入居者は居間に集まっている。温度や空調はエアコン等で適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、食堂、廊下に座れる場所を多く用意し個々にくつろいでいただけるよう工夫している。コタツも用意しており思い思いの場所で過ごして頂いている。居室にも椅子を用意しゆっくりと休息できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染のものを持参してもらえるように勧めるなど、利用者が不安とならないように家族と相談しながら工夫したお部屋作りを支援している。ほとんどの方がベツトを使用している。状況に応じて介護ベツトを利用し本人へ負担の掛からない様に対応している。	居室には、蓄熱暖房、温度計・湿時計があり、快適な空間保持に努めており、年度計画でエアコンの設置も進めている。利用者は、ベツト、筆筒、衣装ケース、テレビ、家族写真などを持ち込んでいる。家族からの絵手紙を飾っている方、自らが詠んだ俳句を飾っている方、書道を飾っている方などもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から近い場所にトイレを配置し、施設内は段差の内作りとなっており安心、安全な環境作りを努力している。安全な歩行が出来るように本人に合った歩行器やシルバーカーを用意している。夜間歩行に不安が見られている方には居室内にポータブルトイレを用意するなど本人の身体状況に沿った対応を行っている。		